

# 令和3年度 後期学校関係者評価書

南アルプス市立大明小学校

## 第2回 学校関係者評価委員会【書面開催】

1 実施日 令和4年1月20日（木） 書面提案

2 評価者 学校関係者評価委員  
石田 敏枝（委員長）  
杉山由貴子  
市川 和男  
市川 政子  
高野 晃史  
岩間 芳樹  
松村 圭祐  
学校職員  
穴山 直樹（校長）  
横澤 敏英（教頭）  
小泉 昭市（教務主任）

### 3 学校から提案された内容（書面）

- ①保護者アンケート（教頭）
- ②教職員による自己評価（教務主任）
- ③児童アンケート（教務主任）

### 4 学校から書面提案した3つのアンケートに対する「意見・感想」など

#### （1）保護者アンケート結果

- ①全世帯にアンケートを実施することによって、すべての保護者の意見がわかり、より学校運営に反映することができると思います。多くの保護者が学校を信頼し、担任を信頼している様子がわかります。子どもたちの個性をしっかり受け止め、よいところを伸ばそうとくださる先生方の努力を心から感謝しているがわかります。まとめがたいへんだったと思います。ご苦労様でした。
- ②コロナ過での教育の在り方については、感染の深刻さに対する捉え方も千差万別であり、学校としては、子ども同士のふれあいによる学びの重要性を認識しつつも、いろいろと制限せざるを得なかったと思います。その中でも方法を工夫して学び合いを大切にしていたと思います。学校行事においても高学年になると、子どもなりに感染対策をとりながら行事の進め方なども考えているようです。学校全体が落ち着いていました。
- ③グラフ、意見等を拝見して保護者で意見を述べる内容が単純なものから、長文のものまで、とてもたくさんあり、参考になりました。私が小学生の時の親は、学校にお任せでしたから、時代の移り変わりを、すごく感じております。
- ④どの項目においても、ほぼ前回同様、肯定的な意見が多いのは、日々先生方が保護者に対して様々な面で働きかけを行ってくださっているおかげだと思います。コロナの影響で前回、学校と家庭との意思の疎通をとる機会が減り、難しい・・・という考察がありましたが、アンケート結果や保護者の意見から改善されていることを感じました。
- ⑤「子どもの良さや」という言葉がよくでてきますが、どのような良さを伸ばしていくかがよくわかりません。ひとくくりでなく「自由な発想」とか「人にやさしい」とか「面倒見がいい」とかどのような良さが「大明にはあるのか」考察していただくとよくわかるのではないかと。
- ⑥ケータイ電話の保有率が増えてきているのに対し、ルール決めがいまいちな面が少し気になった。あいさつに関しても、地域でのあいさつが不十分な気がする。地域でもしっかり気かけ、実行していくことが大切だと思う。

## (2) 教職員による自己評価

- ①校長先生を中心に職員一人一人が協力し、問題にあたっている様子がよくわかります。一人一人を観察し、わかる授業の工夫など積極的に取り組もうとしている先生方の姿が見られます。授業の中で「きく」「つなぐ」「まつ」「調整する」の工夫がなされていることは、すばらしいと思います。自己肯定感をしっかり持てる子どもたちの育成をお願いいたします。
- ②見回りで通学路に立っていますが、あいさつはここ数年とてもよくなっています。何より、登校班の高学年の力が大きいです。
- ③先生方の努力をひしひしと伝わってくるアンケートでありました。「その子ども一人一人・・・むずかしいと感じている」たいへんな問題ですね。
- ④学校経営、学校運営をはじめ、教科指導、生活指導、保健指導など、いくら時間があっても足りないくらいだと思います。先生方が日々、努力してくださっていることが、アンケートからも分かります。本当に頭が下がる思いです。ありがとうございます。ただ、先生方が物理的にも精神的にも、ゆとりをもって教育にあたるのが大切だと思うので、それについてもよろしくお願いします。
- ⑤「大地震の予兆？」があちこちで表面化している今、学校現場でも初動期の行動が生死の分かれ目となるので、日中での発生に備え多くの訓練に時間を割いて実施していると思います。どのように行っているかわかりませんが、一度無通告状態で実施し、本当に逃げられるのか実施されることはいかがでしょう。一度検討してみてください。  
あいさつについては、子どもの見守り時などは、よくしていると感じられるが、そのほかではやはり恥ずかしいのかできていないように感じています。ただ、誰にでも声をかけるのも「怖い」と思う部分もわかるし、仕方ないところではないでしょうか。「相手がどんな人間なのか分からない時に」声をかけるのは気が引けるのは当然であるし、仕方ないところではないかと推察する。
- ⑥前期と比べ改善が必要という意見が数々の中で減っていることが分かった。日々の先生方の努力と思考を感じた。給食のマナーに関しては、家庭でも指導に努めていきたい。
- ⑦給食時の姿勢やマナーについては、それぞれの家庭環境によるものが大きいと思われるので、1回だけでなく継続的に学年通信や個人の連絡帳などでも家庭に協力をした方がいいのではないかと。

## (3) 児童アンケート結果

- ①何より子どもたちが、学校が楽しい、学習内容がわかる、困った時に相談する人がいるなどの項目に肯定的な回答が多いのはうれしいことです。学校行事や清掃活動、あいさつ運動などに積極的に取り組んでいる姿がわかります。特に、朝のあいさつは最近とてもいいそうです。特に6年生のリードがよく指導している人や車の人にきちんとあいさつし、校長先生の声かけが細やかで子どもたちも先生方もすばらしいとのこと。山日の「おおきくなったら」の記事に6年生全員が自分の夢をのせたことはすばらしいことだと思います。これからの子どもたちの活躍を期待しています。
- ②問3について、全体的に2学期になると「よくわかる」が微減するのは、やはり内容が多く、複雑になってくるからでしょうね。あきらめない粘り強さを育ててほしいです。  
問2について、経年でみていくと否定的な回答が2年生、3年生に見られます。クラスの間関係に配慮しながら、学習集団として育ていけるよう、御指導お願いします。
- ③元気に楽しく学校生活を送り、健康で体力も向上させ、知能も発達する児童がイメージとして浮かんできました。
- ④あいさつについては、朝、子どもたちといっしょに登校している時、できるだけこちらから声かけをするようにしています。登校指導の中で、学校では、子どもたちにどんなルールを指導しているのか、また、班長は横断の時、何をするのか・・・など、機会がありましたら教えていただくと、それに準じて声かけができるので、お願いしたいです。今はこんな状況なのでなかなか無理ですが・・・。
- ⑤学校が楽しい⇔楽しくないの項目では、やはりどんなことが楽しいのか楽しくないのか示していただくともっとよく理解できるのでは、ないでしょうか。  
同じように学校に行きたい⇔行きたくないも学校に行きたくないで低学年は1/4ほどにもなるのに理由が乏しいので、この辺の考察も気になります。

- ⑥学校が楽しいかという問いに対し，前期・後期ではほぼ同じというのが，少し気になった。  
理由は低・中・高学年と年齢と比例して違うが，「いつも楽しい」が少しでも増えていくことに期待したい。家庭でも日々の表情や様子を気にかけていきたい。
- ⑦スマホの所持者向けに，SNSやゲームのやりすぎに対する注意喚起を行う事も必要ではないか。

\*その他

令和3年度 学校評価委員会は，書面提案をもって，開催にかえます。いただいた御意見・感想につきましては，ほぼ原文のまま載せさせていただきました。貴重な御意見，ありがとうございました。

令和4年1月  
評価書作成責任者

関係者評価委員会委員長  
事務局 学校職員

石田 敏枝  
横澤 敏英